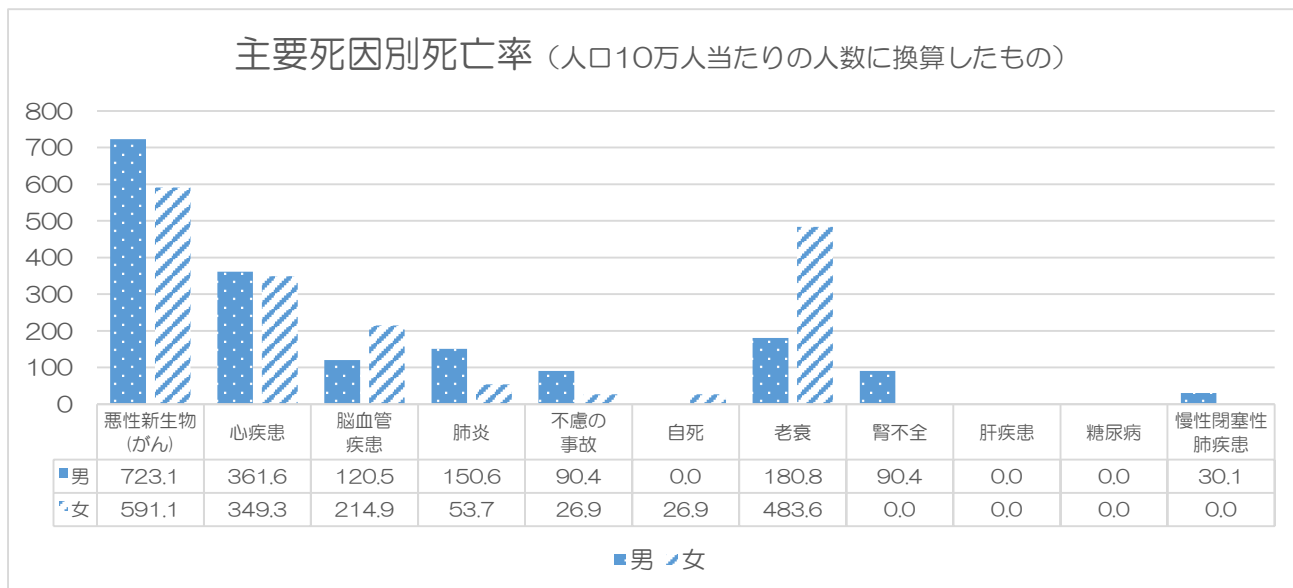


第2章 智頭町における健康と食をめぐる現状と課題

1 町民の健康状況

(1) 主要死因別死亡率（人口10万人当たりの人数に換算したもの）

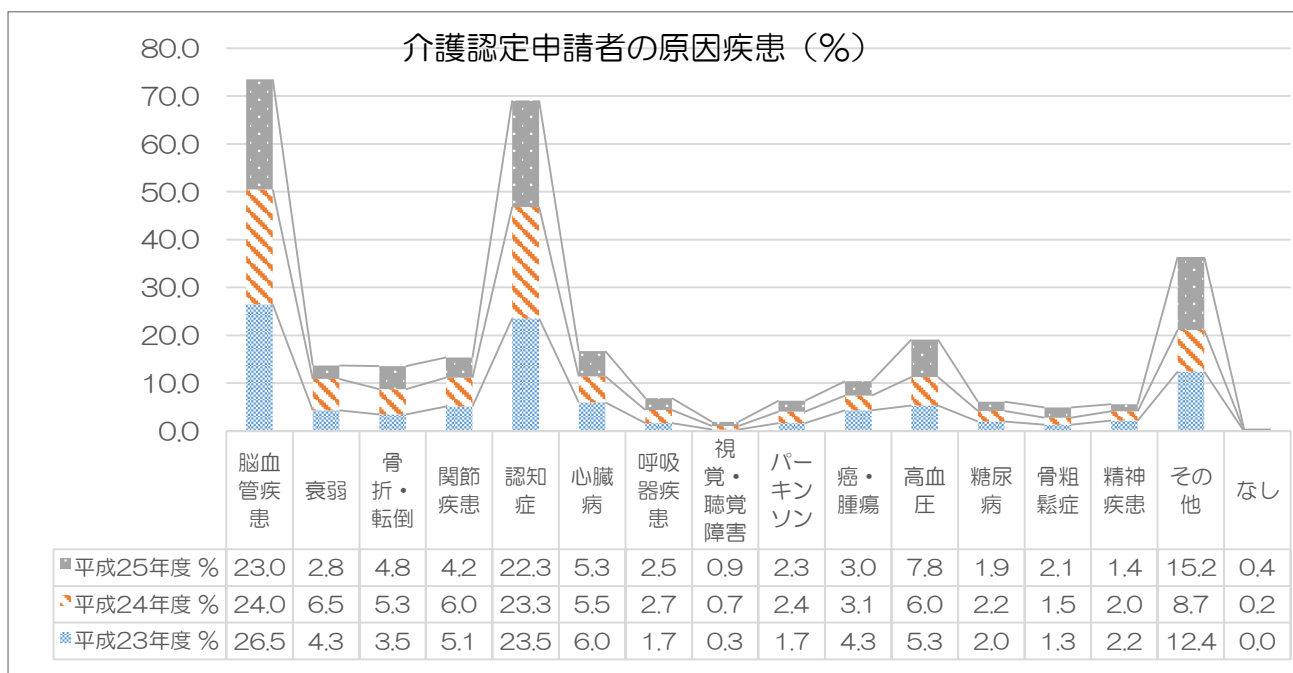
男女どちらも、老衰を除いて「悪性新生物（がん）」「心疾患」「脳血管疾患」の3大死因が高い死亡率を示しており、生活習慣病予防が重要となっています。 平成27年人口動態統計より



(2) 介護認定申請者の原因疾患

原因疾患としては「脳血管疾患」「認知症」が多く、今後介護保険認定者の増加に伴い介護保険給付費の増大が予想されます。また、国民健康保険被保険者平均年齢は55.4歳と、鳥取県や国の平均よりも高く、生活習慣病に関する医療費の上昇も予想されます。

智頭町データヘルス計画より

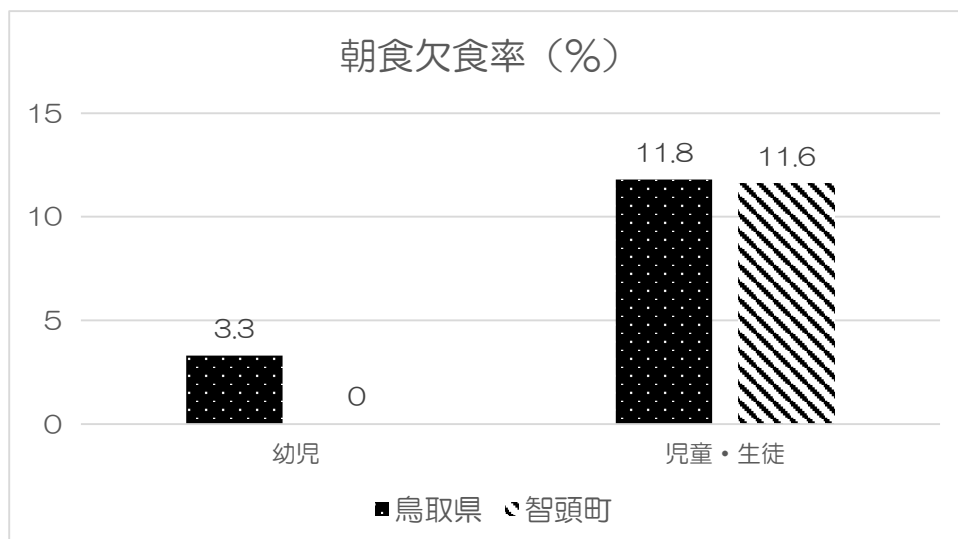


2 食を取り巻く環境

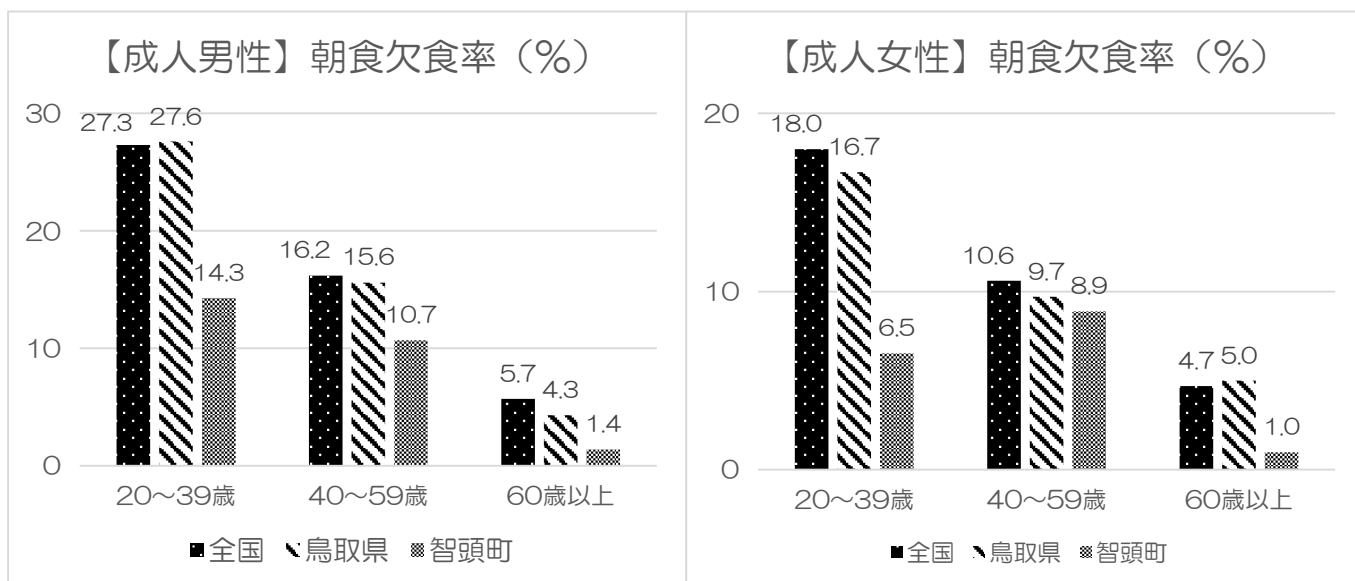
(1) 食生活の変化

幼児の朝食欠食率は0%で、全員が朝食を食べているという結果であったが、アンケート回収率が100%ではないこと、朝食の内容については把握していないことから、朝食を毎日食べることに併せて「何を食べるか」ということについて周知していく必要があります。

児童・生徒についても、毎日食べないという者は0%であったが、週に何度か食べない日があるという者は11.6%であり、朝食の必要性を周知する必要があります。

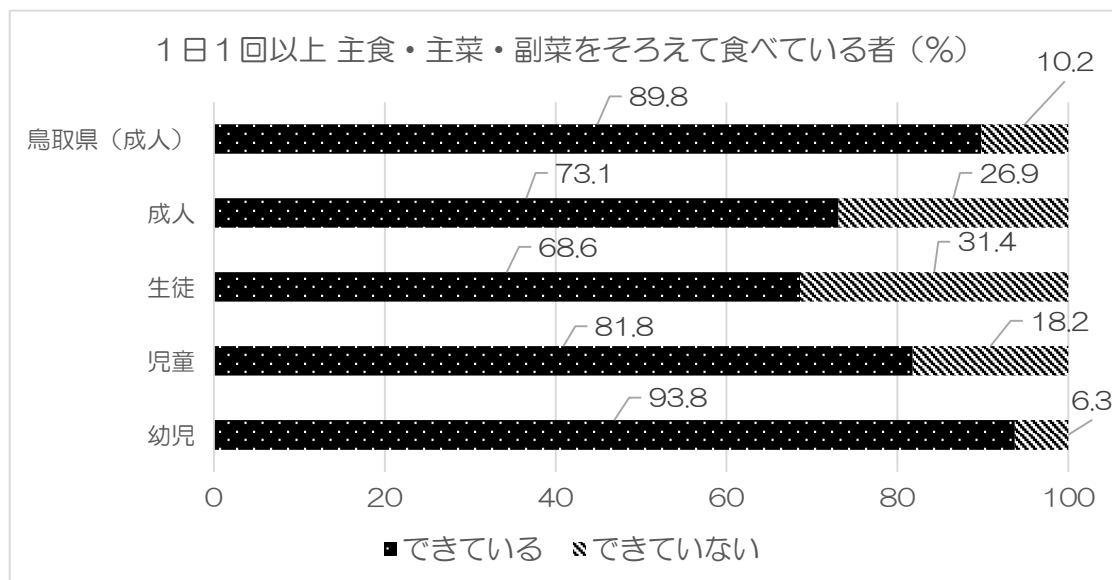


成人について、全国・県と比較すると、男女ともに朝食欠食率は低かったが0%ではありませんでした。また、20～39歳男性の朝食欠食率は他の年代に比べて14.3%と高く、若い世代の食生活の乱れが問題となっています。

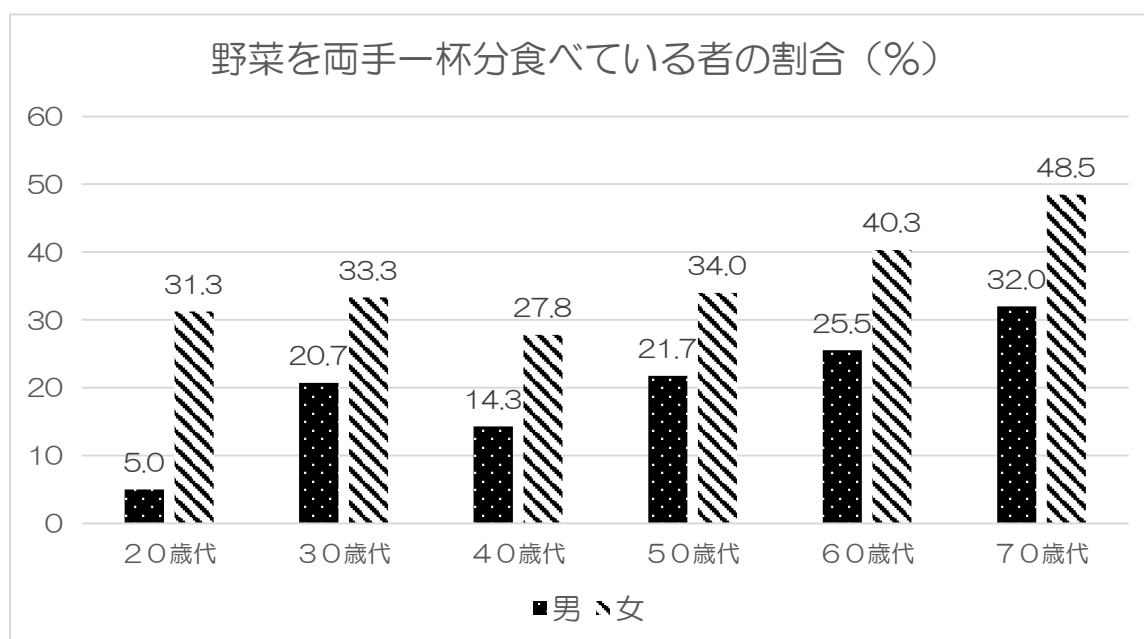


(2) 食生活に対する意識

成人で1日1回以上主食・主菜・副菜をそろえて食べている者は73.1%であり、鳥取県（成人）と比較すると実践できている者の割合が低く、食生活に対する意識が低いことが伺えます。また、幼児については実践できている者が93.8%と高かったが、1割弱の家庭で実践できておらず、食生活に対する意識の向上を目指す必要があります。



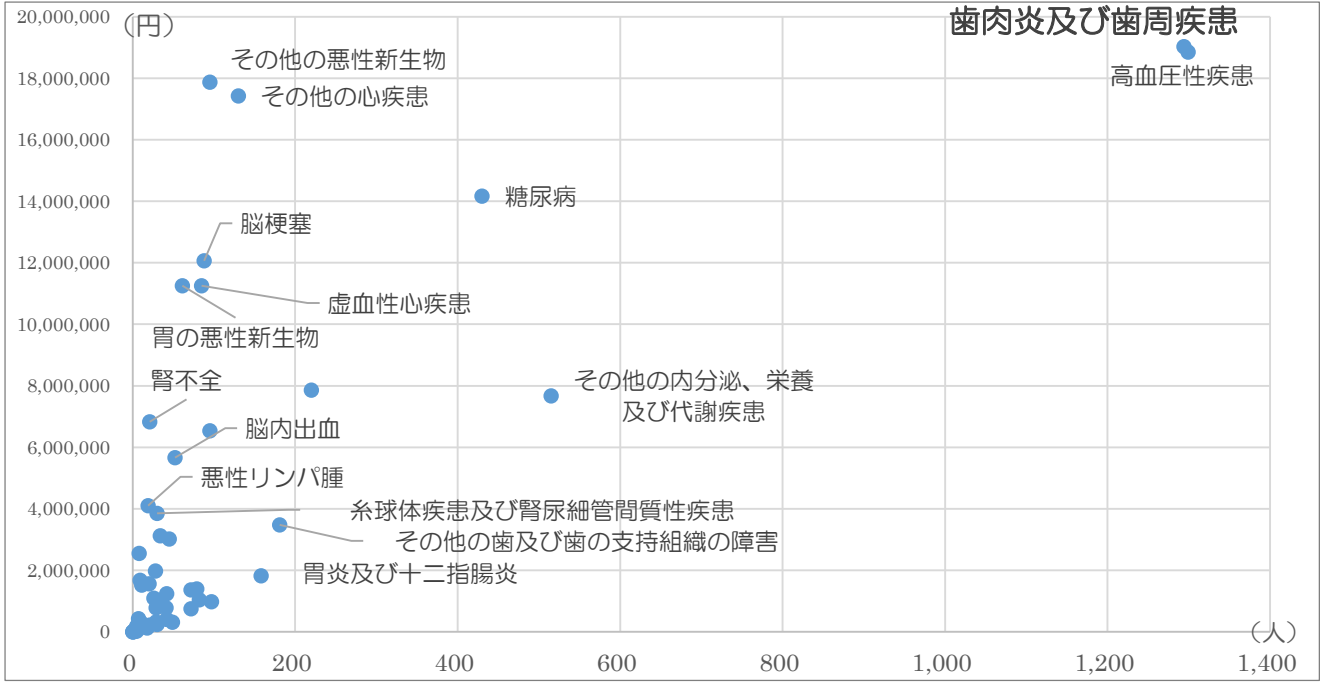
野菜を1日に両手一杯分食べている者の割合は、70歳代 女性48.5%が最も高く、20歳代 男性5.0%が最も低くなっていました。男女別で見ると、女性の方が「毎日両手一杯分の野菜を食べる」割合が高く、男性の食に対する意識の低さが伺えます。



(3) 歯周疾患と歯の健康

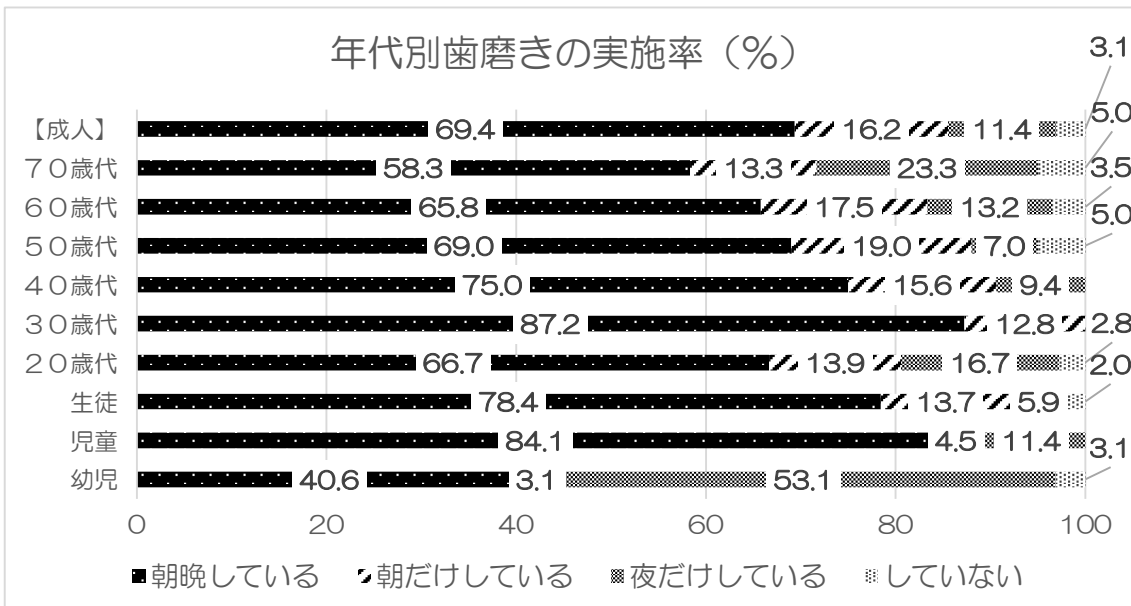
中分類による疾病項目別医療費統計による医療費分析の結果「歯肉炎及び歯周疾患」「高血圧性疾患」が高い割合を示しています。特に歯周疾患は全身の健康と関連しているため、歯周疾患の予防や早期治療により、本町の課題である心筋梗塞の発症・再発予防、糖尿病の重症化予防につながると考えられます。

智頭町データヘルス計画より



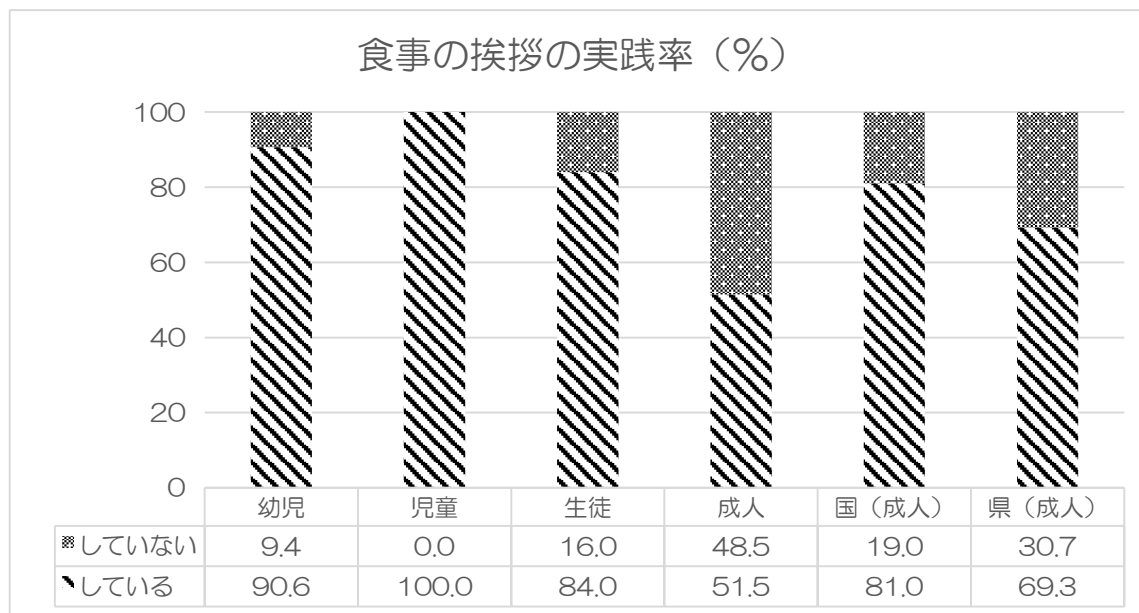
幼児について、朝晩の仕上げ磨きをしている家庭は40.6%であり、半数以上の家庭で実践できていませんでした。また、児童・生徒については朝晩歯磨きをしている者は約80%であったが、していないという者もあり、歯磨きによる口腔ケアの実施率の低さが伺えます。

成人についても20歳代、50～70歳代では「していない」という者もあり、歯磨きによる口腔ケアの重要性を周知する必要があると考えられます。



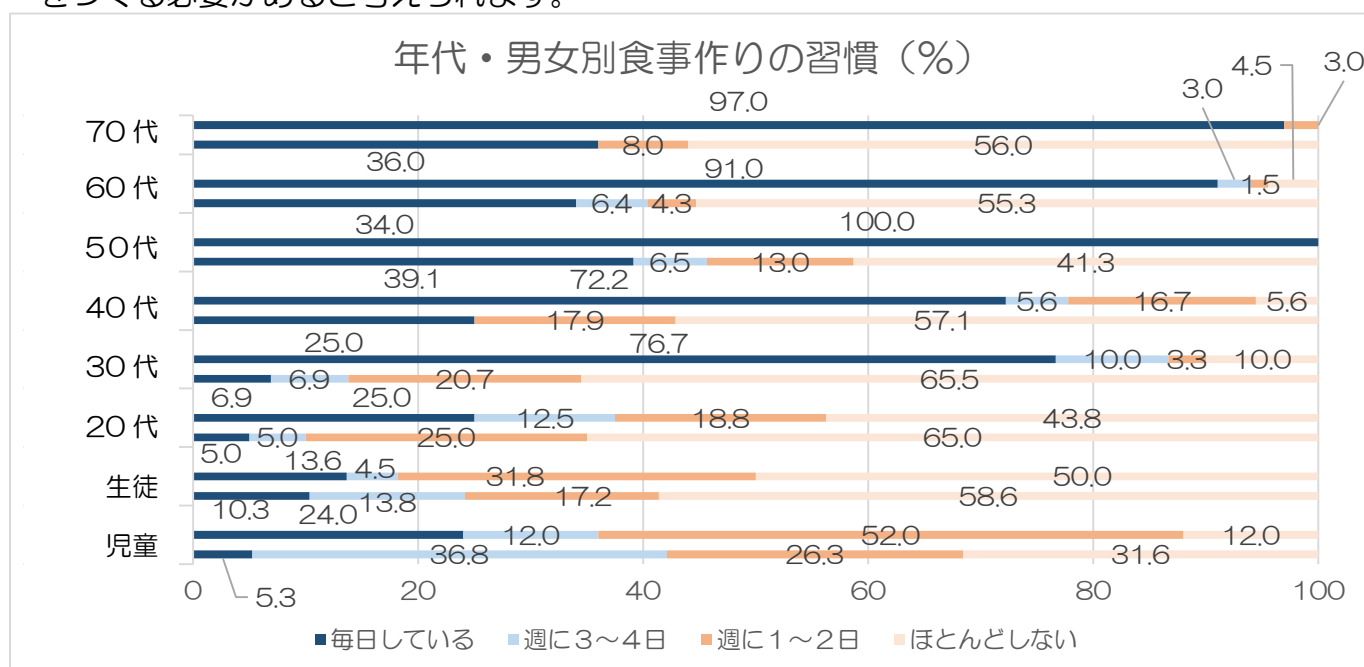
(4) 食事に対する感謝の心

食事の挨拶について、児童の実施率は100%であったが、成人については、全国・鳥取県と比較すると実施率が低く、51.5%と約半数の者しかできていませんでした。大人が子どもの見本となるよう、家庭での食事の挨拶を習慣化する必要があると考えられます。



鳥取県：平成22年県民健康栄養調査（平成23年10月），鳥取県健康政策課
 全国：食育に関する意識調査報告書（平成21年5月），内閣府食育推進室

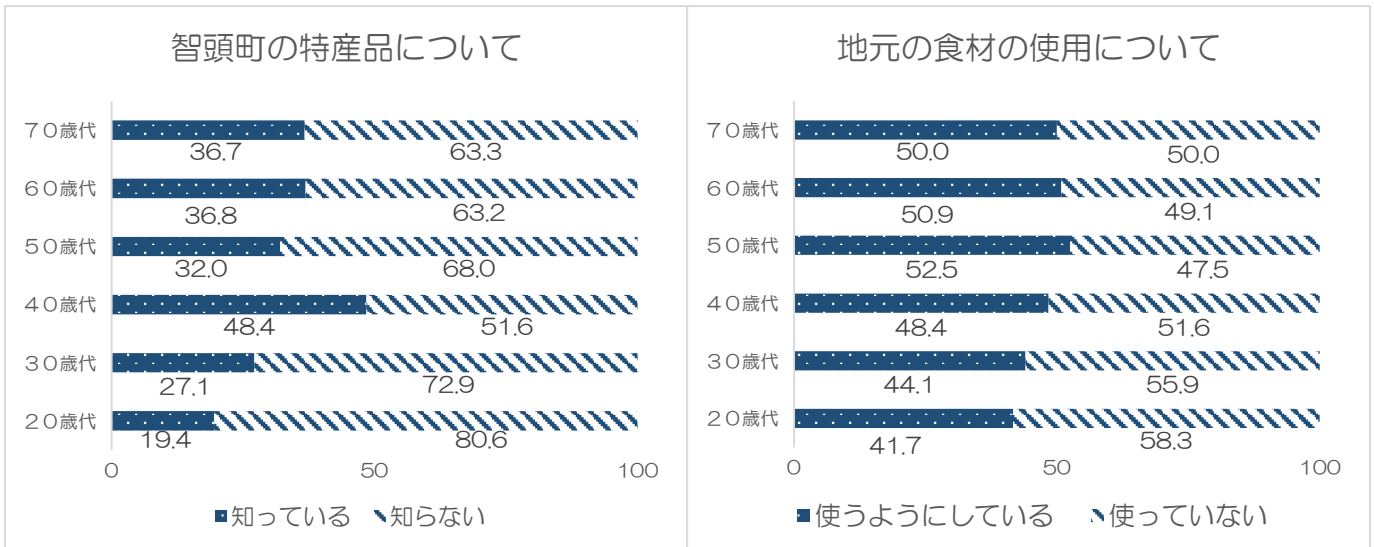
いずれの年代も食事作りが女性に偏っており、20～30歳代男性については、「ほとんどしない」という者が半数以上となっていました。児童生徒については、食事作りまたは手伝いを毎日している者は1～2割しかおらず、家庭での食事作りまたは手伝いの習慣をつくる必要があると考えられます。



3 地域の食文化の継承

(1) 地産地消

町の特産品について、いずれの年代も半数以上の者が「知らない」という回答となっていました。また、地元食材の使用については、50歳代以降は半数以上の者が使うようにしていたが、20～40歳代の者は地元食材の使用に関心がなく、いずれの年代に対しても本町の特産品を知り、活用してもらえよう取り組みが必要であると考えられます。



(2) 郷土料理

郷土料理について、いずれの年代も認知度が低く、知っていると回答した者で、食べたことがある者、作ったことがある者も半数以下となっていました。核家族化が進み、家庭や地域内での伝統行事、地域ぐるみの活動が少なくなり、食に関する情報が氾濫しています。一方で、伝統料理・郷土料理を知らない、作れないなど、地域で育まれてきた豊かな食文化が失われつつあり、継承を担う人材の育成が求められています。

